

個別事業名	区分	部署	所属	事業概要	成果（結果）を示す指標	単位	H30実績	H30目標	R元目標	H30当初 (千円)	R元当初 (千円)	H30決算 (千円)	H30 事業結果	部局評価	財政課評価
<b>政策12 豊かな文化・魅力を活かしたイメージアップ</b>															
【目的】群馬の魅力を再発見し、県民の誇りを醸成するとともに、群馬のブランド力の強化・発信、歴史文化遺産や文化・スポーツの活用により、群馬のイメージアップを進めます。															
<b>施策1 県民の誇り醸成</b>															
【目的】地域の魅力を再発見して高上げ、県民の郷土に対する誇りをはぐくむとともに、県の取組に対する理解を深め、群馬に対する県民の愛着を高めます。															
(1)群馬の魅力再認識															
①県民が郷土群馬の魅力を再発見できる取組を進めます。															
広報021			総務部	広報課	県民に群馬の魅力を再認識してもらうため、県のイメージアップサイトを運営するとともに、県の魅力を紹介する冊子を制作・配布する。	イメージアップサイトへのアクセス件数	万件	77	150	150	6,336	2,185	6,184	5継続 (見直しあり)	5継続 (見直しあり)
都計008		再掲	県土整備部	都市計画課	市町村、住民および事業者の地域特性を活かした景観づくりを支援・援助することにより、地域に根ざした景観形成推進に寄与する。	景観行政団体数	市町村	20	31	35	4,938	3,376	2,897	5継続 (見直しあり)	5継続 (見直しあり)
②群馬の文化・風土等を多角的・総合的に見つめ直し、その成果を発信します。															
③地域の郷土料理などの食文化を保護・継承し、県民の郷土愛をはぐくみます。															
ブ推007			農政部	ぐんまブランド推進課	地域の良質な食材の利用を進め、伝統に根ざした豊かな食の実現を図るとともに、食と農の距離を縮めた「顔の見え関係」の構築により、消費者と生産者の相互理解を促進する。	ぐんま地産地消優良店認定数	店数	51	46	50	8,236	6,203	8,038	4継続	4継続
(2)群馬の取組再認識															
①群馬県を誇るべき先進的な施策を県民に広く発信します。															
広報005			総務部	広報課	地域の魅力ある素材を、群馬県の魅力として、親しみやすく紹介する番組を制作することでイメージアップを図るとともに、県民生活に密接に関わる県政情報、県民のお知らせといった情報を分かりやすく提供する番組制作し、県民に情報提供する。	番組視聴率（ぐんま一番）	%	8.4	6.8	7.4	122,205	121,164	122,202	5継続 (見直しあり)	5継続 (見直しあり)
広報006			総務部	広報課	「ぐんま広報」は毎月第1日曜日に発行し、新聞折込により全戸配布している。「グプ」は毎月10日（6月・10月2月を除く、1月は11日）発行し、書店での販売とともに、県内の医療機関、金融機関、飲食店、理美容院等に無料配布している。	「ぐんま広報」発行部数	部数/月	656,500	701,000	701,000	133,309	130,597	122,179	5継続 (見直しあり)	5継続 (見直しあり)
広報008			総務部	広報課	県の政策や行事・イベント、制度改正などの県政情報を上毛新聞紙上に掲載する。	年間掲載日数	日/年	260	354	354	11,453	11,557	11,453	5継続 (見直しあり)	5継続 (見直しあり)
広報009			総務部	広報課	県政の動きや話題などを分かりやすく紹介する番組やCMを、エフエム群馬で放送する。	ワイルドPREF番組聴取率	%	H30調査なし	5.0	5.3	27,277	27,245	27,265	5継続 (見直しあり)	5継続 (見直しあり)
広報011			総務部	広報課	県民意識の現状を把握するため、県民嗜好度調査及び県民アンケート調査を含む内容をとり実施する。	アンケート回収率	%	46.7	50.0	50.0	2,767	2,767	2,751	4継続	4継続
国保001		再掲	健康福祉部	国保課	子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに子どもたちが安心して必要な医療が受けられるよう、市町村が実施する中学校卒業までの子どもを対象とした保険医療費の自己負担分の助成に係る経費を補助する。（補助率1/2）	中学校卒業までの子ども医療費補助を継続実施		—	中学校卒業まで医療費補助を継続	中学校卒業まで医療費補助を継続	3,911,085	3,911,167	3,761,822	4継続	4継続
<b>施策2 群馬のブランド力の強化・発信</b>															
【目的】「ぐんまブランド」を創出し、群馬の魅力を国内外へ発信します。															
(1)地域資源を活用したブランドの創出															
①群馬の魅力を国内外へ印象づけるため、「ぐんまブランド」を創出し、国内外へ発信します。															
広報003			総務部	広報課	「温泉」「すき焼き」「おつきこみ」「ぐんまちゃん」及び世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」など、群馬県を結びつぐ、集中的にプロモーション活動を行う。	「おつきこみプロジェクト」参加店舗数	店舗	180	185	190	3,916	3,775	3,333	4継続	4継続

	個別事業名	区分	部署	所属	事業概要	成果(結果)を示す指標	単位	H30実績	H30目標	R元目標	H30当初(千円)	R元当分(千円)	H30決算(千円)	H30事業結果	部局評価	財政課評価
	広報019		総務部	広報課	県民が本県の魅力を再発見し、県民自身が魅力を発信していく仕組みを構築するとともに、本県ならではの魅力をWebで発信し、官民協働で、女性にターゲットを絞ったイメージアップ企画を検討・推進する。検討会議の開催、モニターツアーや女性誌とのコラボ企画の実施などを通して、くまのイメージアップを図る。	テレビ、ラジオ、雑誌等でプロジェクトの取組が取り上げられた件数	件	11	16	18	6,217	6,083	5,376	インスタグラムを活用したフォトコンテストを3回開催するとともに、くまちゃん家等で首都圏在住の女性が本県の魅力を感じ、参加者からSNSで魅力を発信するイベントを開催した。また、WebサイトしあわせGZのホームページを開設し、本県の様々な分野の魅力を発信した。	5継続(見直しあり)	SNSなどによる情報発信が拡大するなか、県民が主役となる「草の根の発信」は重要であり、継続。県全体の広報施策の検討を進めるなかで、費用対効果等を踏まえながら、活用のあり方について十分検討していく必要がある。
	スポーツ011		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	豊かな自然環境を活かした既存のアウトドアスポーツを盛り上げ、国内外の観光客の増加を図る。(県境の山々の視線100kmを活用したロングトレイル整備の検討)	接続トレイル関連イベント実施回数	回	7	5	5	31,038	41,911	29,901	新規開通区間の道標整備、案内看板の設置、ログマークの設置、トレイルマップ(日本語版及び英語版)の作成等を行い、8月11日に接続トレイル全線を開通させるとともに、登山道の安全情報等の提供を行った。ヘリ事故により中止となったが、開通記念イベントの開催準備を行った。	4継続	昨年8月に全線開通するとともに、関係部局、市町村、関係団体等と連携した取り組みを強化するため、「検討委員会」を活用促進協議会に発展改定した。今後も周辺観光資源と結びつけた地域振興施策の充実を図りつつ、トレイルの安全性向上施策を進める必要がある。
	プ推004		農政部	くまノブ推進課	県産畜産物販売戦略協議会を中心に、消費者・実需者の視点を重視した販売戦略を展開し、県産畜産物のブランド力を高め、販売競争力の強化を目指す。	都中央における県産野菜重点8品目の取扱金額	億円	179	158	161	40,143	28,355	36,332	すき焼きアクションでは、県民参加による世界記録挑戦により県産畜産物の魅力を県内外に発信したほか、県内公立学校でのすき焼き給食の実施、すき焼きナビ発行といった話題提供により、多くのメディア露出を果たした。また統一ロゴマーク関連のInstagram開設、都内食彩フェアでのメディア向け試食会など、新たなPRの手法にも取り組んだ。	4継続	「くまのすき焼き」を本県ならではの料理として定着させつつ、県産畜産物の魅力の結晶としてのメディア向けプロモーション素材として活用していくため「くまのすき焼きアクション」の取組を継続する。群馬Dなど実需者が多く見込める機会を捉えて、同アクション賛同企業数やすき焼き提供店など連携を図りつつ、一人でも多く喫食機会を提供し認知度向上を図る。
	工振007		産業経済部	工業振興課	伝統的かつ優れた技術・技法を持ち、知事の指定を受けた群馬県ふるさと伝統工芸品の普及・振興のため、展示会を開催する。	県ふるさと伝統工芸品展来場者数	人	3,223	3,700	4,000	1,117	2,200	1,093	群馬県ふるさと伝統工芸品展(期間：H30.5.31～6.4、会場：県庁県民ホール、来場者数：3,223人)	4継続	後継者不足が課題となっている。伝統工芸品を周知するだけでなく、理解を深める取組を実施していく必要があるため、継続。
	観物011		産業経済部	観光物産課	本県を代表する工芸品の一つである近代こげしをPRするため、近代こげし展を開催する。	こげし展への来場者数	人	2,394	2,427	2,427	236	236	231	近代こげしPRのため、県庁において全群馬近代こげしコンクールを開催し、広く一般公開を行った。	4継続	近代こげし展は、本県を代表する工芸品の一つであり、組合等と連携し、引き続きコンクール等を開催し普及に向けたPRを図る必要がある。また外国人からの関心が高い工芸品としての魅力をPRすることで、外国人観光客の誘客などにつながるため、継続して取り組みを進める必要がある。
①「絹の国くま」ならではのブランド化を図り、養蚕、製糸、織物をはじめとしたシルク関連産業の創出・継承を推進します。																
	畜園008		再掲 農政部	養蚕園芸課	県オリジナル畜産品種等の活用及び「群馬の絹」のブランド化を進め、付加価値の高い畜産業を展開するとともに、遺伝子組換えカイコの実用化を推進し、新産業創出による畜産業の維持・発展を図る。また、県産絹・生糸流通促進対策をはじめ、多様な養蚕担い手の育成、世界遺産登録を受けて観光畜産業を推進するなど、総合的な支援策を講じ、畜産業の継承を図る。	養蚕経営体における産生産規模拡大	kg	370	460	500	125,022	500,947	177,671	畜産業を維持・継承するため、県内11協議会が取り組む産生産活動などに対して支援するとともに、「くま養蚕学校」を開催し、多様な養蚕担い手を育成・確保した。また、群馬県オリジナル畜産品種の整備及び人工飼料を安定的に製造・供給、遺伝子組換えカイコの飼育拡大、県産シルクのブランド力向上及び市場拡大を図った。	4継続	協議会の産生産活動への県・市町村支援により、養蚕農家の生産意欲が高まっている。5月から9月の猛暑の影響などにより、産生産量は前年比90%となったものの、新たな担い手となる養蚕参入者は、「くま養蚕学校」の開催等により企業や若者など21名で、その間生産量は全体の21%となり、効果が見られている。この動きを更に確かなものとするため、引き続き養蚕強化策、畜産業継承対策、遺伝子組換えカイコ実用化の加速、県産シルクのブランド力向上支援などの対策を講ずる。
③県内の物産等業者に対する販路拡大・商品開発を支援します。																
	広報002		総務部	広報課	首都圏における群馬県の情報発信・収集拠点として、東京銀座のくま総合情報センター(くまちゃん家)を運営する。物産販売や観光案内の充実、情報発信の強化を図るほか、Uターン等情報提供を行い、効率的な運営を図る。	くまちゃん家が関与したメディア放送等実績	件	249	190	190	144,953	108,726	138,656	「ハリスティ対策(記者会資料提供467件、新聞等掲載1,203件、サロンドP開催6回)」「イベント開催(延開催日数146日間、58件、観光案内(観光相談件数2,571件)・物産販売(物産品販売品数1,393品、総売上額1億1千万円)・移住・就職支援(在京3事務所連携による相談件数16件)など	4継続	移転後の周知が進むにつれ来場者数や売上も増加傾向にあり、今後も県内市町村、県庁各課等と連携し、イベントを行うなど認知度アップを図るほか、ハリスティ活動による情報発信やUターン達成など、県の魅力発信、観光誘客を積極的に推進する。
④観光との連携による内水面漁業の推進を図ります。																
	畜園009		再掲 農政部	養蚕園芸課	河川湖沼における水産資源の保護増殖、養殖業者の育成拡大と生産物の消費拡大を行うことにより、内水面漁業の振興を図る。また、河川における魚類等の生態系保全・水産資源の保護増殖のため漁場環境の保全を行い、漁業経営の安定を図る。	遊漁用ニジマス生産量	トン	6	10	30	26,843	28,249	29,721	カワフ、コナシバスの駆除、県産稚アユの放流促進、魚類防疫、医薬品の適正使用指導などで内水面漁業の振興を図った。ハコブシの生産振興では実証試験を実施し、生産者にも努めた。また、河川を横断する農業用水堰へ魚道を設置するため、関係者との調整や、測量設計と工事を行った。	4継続	内水面漁業の振興上、河川湖沼の水産資源の保護にはカワフやコナシバ等の駆除、アユ冷水病を中心とした魚病対策が重要であり、安全安心な数値魚の提供も、重要な取組である。また、魚道整備は魚類等の移動を促進し、水産資源の増殖が効率化することから、継続し事業を実施する。
(2)県外に向けた戦略的な情報発信																
①在京メディアに向けた情報発信により、群馬のイメージアップを図ります。																
	広報003		再掲 総務部	広報課	「温泉」「すき焼き」「おつきこみ」「くまちゃん」及び世界遺産「富岡製糸場と絹産物遺産群」など群馬県を結びつけ、集中的にプロモーション活動を行う。	おつきこみプロジェクト参加店舗数	店舗	180	185	190	3,916	3,775	3,333	「おつきこみプロジェクト」は希望店が全て参加できるスタンダードを実施するとともに、マップ「おつきこみ大図鑑」を改訂した。Web上でレシピを募集し寄せられた家庭のレシピを「クックリフト」に掲載して郷土食としてPRした。その他、Instagramフォトコンテスト入賞作品発表、銀座で開催した女子会レポートを通じて、本県の自然や文化、食、農産物等の魅力を情報発信した。	4継続	「おつきこみプロジェクト」については、事業者と協力し、本県の食の魅力としてくまD Cとも連携しながら発信していく。在京メディアへの情報発信については、本県の魅力を部局横断的にまとめ、有料配信サービスの利用など受け側が活用しやすく本県の露出がより高くなるような情報発信方法を検討する。
	広報018		総務部	広報課	インターネットを利用して、県政情報をはじめさまざまな情報を県内外に発信する。	県ホームページアクセス数(トップページ)	万件	4,820	5,200	5,500	20,539	20,518	20,000	誰でも手軽にホームページを利用できるよ、ウェブアクセシビリティに配慮したページを作成・発信するとともに、利用者のセキリティ確保のため常時SSL化を実施した。また、トップページに画像や動画情報を利用し県政情報やくまの魅力を発信を行った。	5継続(見直しあり)	ホームページを利用した情報発信は、即時性、有効性、効率性が高く、県政情報や群馬の魅力を県内外に発信する上で、必要不可欠である。県全体の広報施策を検討する中で必要に応じて見直しを行い、今後も公共サイトとして、ウェブアクセシビリティやユーザビリティ(使いやすさ)に配慮しながら、継続的に実施する必要がある。
	産政004		再掲 産業経済部	産業政策課	知事のプレゼンテーションを主体とした企業立地セミナー等を大都市圏で開催する。定期的な企業訪問を行うことにより、立地企業の操業上の課題を適宜把握する。	企業立地セミナー参加企業数	社	65	75	75	2,503	6,058	1,777	企業立地セミナー(東京)の開催 参加企業 65社(団体)、116名 県外企業立地件数 15件(工場立地動向調査) フォローアップ企業訪問件数(県庁、東京、大阪、名古屋) 460件	4継続	都内での企業立地セミナーの開催や県内外でのフォローアップ企業訪問などが効果的に作用し、好調な企業立地に結びついている。引き続き、立地優位性を活かした効果的な企業誘致プロモーションの実施に取り組んでいく。
②「くまちゃん家」の機能を一層強化するとともに、その活用の推進を図ります。																
	広報002		再掲 総務部	広報課	首都圏における群馬県の情報発信・収集拠点として、東京銀座のくま総合情報センター(くまちゃん家)を運営する。物産販売や観光案内の充実、情報発信の強化を図るほか、Uターン等情報提供を行い、効率的な運営を図る。	くまちゃん家が関与したメディア放送等実績	件	249	190	190	144,953	108,726	138,656	「ハリスティ対策(記者会資料提供467件、新聞等掲載1,203件、サロンドP開催6回)」「イベント開催(延開催日数146日間、58件、観光案内(観光相談件数2,571件)・物産販売(物産品販売品数1,393品、総売上額1億1千万円)・移住・就職支援(在京3事務所連携による相談件数16件)など	4継続	移転後の周知が進むにつれ来場者数や売上も増加傾向にあり、今後も県内市町村、県庁各課等と連携し、イベントを行うなど認知度アップを図るほか、ハリスティ活動による情報発信やUターン達成など、県の魅力発信、観光誘客を積極的に推進する。

個別事業名	区分	部署	所属	事業概要	成果(結果)を示す指標	単位	H30実績	H30目標	R元目標	H30当初(千円)	R元当分(千円)	H30決算(千円)	H30事業結果	部局評価	財政課評価			
③全区区となった「くんまちゃん」の人気を効果的に活用します。																		
広報015	くんまちゃんによるイメージアップ	総務部	広報課	くんまちゃんデザインの利用許諾やくんまちゃんのイベントへの出席等を通して群馬県のPRを行う。	くんまちゃんのイベント等への出席回数	回	98	160	160	14,681	14,538	13,966	くんまちゃんデザインの利用許諾 1,551件 県内イベント出席回数9件、「くんまちゃん」イベントの実施(お誕生日会:2月23日)、TV番組出演等	4継続	くんまちゃんは全国的に人気が高く、くんまちゃんを活用した発信が効果的であるため、引き続き取組を継続していく。 民間のくんまちゃんのデザイン利用については、申請方法や許諾期間など手続きを見直し、更に効果的な活用を進めていくとともに、企業・団体への利用の働きかけを行うこととする。	4継続	全国的に認知度が高いくんまちゃんを積極的に活用することで、効果的なPRと本県のイメージアップが期待できることから継続。	
④「群馬交響楽団」の演奏やスポーツイベント、県内プロスポーツ支援を通じてイメージアップを図ります。																		
スポ008	全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝 in くんま)	生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	競技コースの安全を確保し事故なく大会を実施する。テレビの生中継により全国に群馬県をPRする絶好のイベントとして、関係機関と連携し、大会を盛り上げるとともに開催地群馬県を全国にPRする。	テレビ視聴率	%	12.3	14.0	14.0	8,670	8,694	8,629	大会関係者との連携を図り、円滑な大会運営となった。 テレビ視聴率は前年を下回ったが(H29年度12.4%→H30年度12.3%)、マラングランドチャンピオンシップ出場者が多く参加したことによりニューイヤー駅伝の興味関心が高まったことあり、沿道観戦者数は前年と同規模の約70万人であった。各種PR事業を通じて大会を盛り上げるとともに、積極的に群馬県開催をアピールした。	4継続	近年、視聴率は下がってはいるものの、本事業は元日に日本の6時帯生放送の全国放送で多くの方々に本県の情報を発信できる機会であり、大きなPR効果が期待できることから、継続して実施する。また、選手・役員など大会関係者、応援に訪れる方々の交通費・宿泊費等の経済効果も期待できる。	4継続	本県を全国にアピールできる機会であることから、継続。	
スポ009	プロスポーツ支援	生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	バス/草津、群馬ダイヤモンドベガス、群馬フレイメンツの2つのアウェイゲームにおいて、群馬県の観光・物産等をPRする。	各球団のホームゲーム入場者	人	118,553	148,300	149,800	2,485	2,370	2,391	県外で多くの集客が見込める各球団3試合を連日、アウェイ側のチームとの連絡調整を行い、観光マップ、パネル等の配布(各試合500部)などのPR活動を実施することで、群馬県のイメージアップを図ることができた。(バス:静岡、鳥取、神奈川、ベガス:福島、栃木、富山、サンダーズ:宮城、山梨、兵庫)	4継続	バス/ウツワ群馬の3階格の影響もあり、3球団合計のホームゲーム入場者数は大きく減少してはいるものの、各球団の活動を連日、県外の試合会場まで直接来場者に対して本県の観光や物産等を直接PRすることができた。 R元年度は事業内容を見直し、子どもたちに夢や感動を与える場を提供するため、県内各地でスポーツの楽しさや喜びを体験するための教室等の開催を委託。 定期演奏会をはじめとする各種公演会、小・中学校等での移動音楽教室等を通じ、地域に根ざしたトップクラスの楽団として県民に愛され、本県の音楽文化の向上に貢献し大きく貢献していることから、引き続き、財政課協賛安定の財政支援を行う必要がある。また、群馬が作成する改定改定案を参考に、今後の県の支援のあり方について検討を進める。	4継続	全国に本県をPRする取組であり、継続。より効果的、効率的にPRできる。随時見直しながら実施していく必要がある。	
文協004	群馬交響楽団支援	再掲	生活文化スポーツ部	子どもたちに音楽の素晴らしさや感動を伝えるため「移動音楽教室」、「高校音楽教室」、「楽器セミナー」、「幼児移動音楽教室」等を開催する。また、本県のイメージアップを図るため、東京公演や県外公演を実施する。	定期演奏会の平均入場者数	人	1,457	1,480	1,500	313,923	286,028	312,573	年間公演回数 253回(年間鑑賞者数 136,196人)うち、定期演奏会 10回(入場者数 14,565人)※1回平均 1,457人	5継続(見直しあり)	群馬交響楽団は本県の音楽文化の向上と振興に貢献していることから、継続。引き続き、県の支援のあり方や楽団運営のあり方等について検討する必要がある。	5継続(見直しあり)	群馬交響楽団は本県の音楽文化の向上と振興に貢献していることから、継続。引き続き、県の支援のあり方や楽団運営のあり方等について検討する必要がある。	
⑤県産畜産物に対する消費者・実需者の視点を重視し、多様なニーズに対応したブランド戦略を効果的に展開します。																		
ブ推004	県産畜産物ブランド強化対策	再掲	農政部	くんまブランド推進課	県産畜産物販売戦略協議会を中心に、消費者・実需者の視点を重視した販売戦略を展開し、県産畜産物のブランド力を高め、販売競争力の強化を目指す。	都中央における県産野菜重点8品目の取扱金額	億円	179	158	161	40,143	28,535	36,332	すき焼きアクションでは、県民参加による世界記録挑戦により県産畜産物の魅力は県内外に発信したほか、県内公立学校でのすき焼き給食の実施、すき焼きナビ発行といった基盤提供により、多くのメディア露出を果たした。また統一ロゴマーク関連の公式Instagram開設、都内食彩フェアでのメディア向け試食会など、新たなPRの手法にも取り組んだ。	4継続	「くんまのすき焼き」を本県ならではの「おもしろ料理」として定着させつつ、県産畜産物の魅力の結晶としてのメディア向けプロモーション素材として活用しているため「くんまのすき焼きアクション」の取組を継続する。群馬DCなど来県者も多く見込める機会を活かして、同アクション賛同企業数やすき焼き提供店など連携を図りつつ、一人でも多く喫食機会を提供し認知度向上を図る。	4継続	県産畜産物のブランド力を向上させ、競争力強化に取組むことは重要であるため、継続。これまでの取組によって効果を検証した上で、ブランド強化に向けてより効果的な事業内容を検討すること。
畜産014	畜産物流通消費	農政部	畜産課	県産畜産物の消費拡大及びブランド化を推進するため、群馬県畜産品向上対策協議会が実施する県産畜産物の宣伝・イベント等での普及・啓発等の費用の一部を補助する。	県産畜産物取扱推進店認定件数	件	319	362	382	5,301	4,307	5,044	枝肉共進会を通じて農家の飼養技術の向上、高品質畜産物の生産。牛肉輸出に係るモニタリング検査支援、県産畜産物の輸出全額の63%を牛肉が占めており衛生基準の厳しいEUへも輸出していることから、モニタリング検査にかかる支援も継続して行う必要がある。	4継続	衛生的な施設で処理された高品質な県産畜産物を、県内外及び海外に積極的にPRし、県産畜産物の認知度向上、消費拡大を図る必要がある。継続。これまでの取組によって効果を検証した上で、ブランド強化に向けてより効果的な事業内容を検討すること。	4継続	県産畜産物のPRや輸出に係る衛生対策等により、消費拡大を進めるための取り組みであり、継続。効果の検証を行わずに、より効果的なPRを進めていくことが重要。	
⑥観光キャンペーンや民間との連携を活用して、積極的な誘客宣伝を展開するほか、海外メディアへのPRや、海外観光展等での情報発信を行います。																		
観物001	ググッとくんま観光キャンペーン	再掲	産業経済部	観光物産課	H23年度に実施した群馬ステーション観光キャンペーンを契機に継続実施している観光キャンペーンについて、これまでの成果を振り返り、引き続き実施し、本県への誘客促進を行う。	期間中の観光入込客数	人	19,755,670	21,200,000	0	0	0	7月から9月をキャンペーン期間とし、首都圏を中心に、広報宣伝、誘客促進活動を実施した。期間中の観光客入込数は、草津白根山の噴火観光客の引き上げによる国道292号の通行規制に伴う観光客の減少や、猛暑・台風による屋外イベントの中止などの影響により、前年同期と比較して、425,326人減(対前年比2.1%減)の19,755,670人とした。 現地向けプロモーション15回(中国、香港、台湾、シンガポール、タイ、マレーシア、豪州)、旅行エージェント・メディア掲載取材対応(広域連携推進会東アジア、東南アジア、欧米圏)19回、教育関係者招請3回、多言語観光情報発信(英語、中文繁体字、中文简体字、韓国語、タイ語版)教育旅行18ツアー(台湾、中国、インドネシア)	1休止・休止・終了	令和2年春季の群馬DC開催に向けた準備が必要となることから、本事業については一時休止とする。	1休止・休止・終了	令和2年春季に群馬DCを開催するから、本事業については休止とする。	
観物008	国際観光県くんま	再掲	産業経済部	観光物産課	群馬県の知名度アップを図り、本県への外国人観光客を増大させるため、国・他県とも連携を図りながら、観光情報収集・発信等を実施する。	外国人宿泊者数	万人泊	28	19	20	56,740	56,577	51,785	これまで、外国人宿泊者数は期調に増加してきたが、H30はほぼ横ばいとなった。R2年東京オリンピック・パブリック向けに向け、更に外国人観光客受入環境整備を推進するとともに、プロモーション活動(訪日した旅行者へのPR活動を行うこと)で、誘客と旅行消費増進を図り、県経済の活性化に繋いぐことを考える。	4継続	これまで、外国人宿泊者数は期調に増加してきたが、H30はほぼ横ばいとなった。R2年東京オリンピック・パブリック向けに向け、更に外国人観光客受入環境整備を推進するとともに、プロモーション活動(訪日した旅行者へのPR活動を行うこと)で、誘客と旅行消費増進を図り、県経済の活性化に繋いぐことを考える。	4継続	現地プロモーションや本県招請等により、外国人宿泊者数は増加している。今後は、群馬DCや東京オリンピック・パブリック等を見据えた観光誘客や受入環境整備を実施していく必要があることから、継続。より効果的な外国人観光客対策を行うようデータ等を活用し、検討していくこと。
観物003	群馬の観光イメージアップ	再掲	産業経済部	観光物産課	群馬の観光イメージアップを図るため、くんま大使の活動を通じた広報宣伝を展開する。	宿泊客数(国土交通省 宿泊旅行統計調査)	万人	831	941	950	4,454	4,394	4,344	くんま大使を務める中山秀征氏、井森美幸氏を起用したポスターを作成した。二人の出演番組等で本県PRに努めていただき、イメージアップに貢献いただいた。	4継続	芸能人の起用はメディアの注目や一般の関心を高める上で有効であり、群馬県の認知度を高め、誘客に繋ぐためにも継続した取組が必要である。	4継続	芸能人を起用した本県PRは、メディア等の注目や関心が高くなり、有効な取組であるため、継続。
観物004	観光宣伝	再掲	産業経済部	観光物産課	県内への誘客を図るため、様々な手段を用いて県内観光に関する広報・宣伝活動を行う。	宿泊客数(国土交通省 宿泊旅行統計調査)	万人	831	941	950	27,479	29,779	27,767	くんま観光おもしろ祭による本県のPRを行ったほか、東アジア最大級の旅行博であるアジアEXPOジャパンに茨城・栃木の北関東東三県でブース出展し、観光客を回った。また、より効果的な観光PRを進めるため、くんま観光大使制度(ニューイヤー、くんま大使くんま宣伝特派員)を8月から開始した。	4継続	県内外からの観光誘客を図るために、引き続き、ツアーリムEXPOジャパンに出展するほか、くんま大使くんま宣伝特派員制度やくんま観光おもしろ祭の活用により、民間の方と連携しながら観光PRを行う必要がある。	4継続	県内外、国内外から観光誘客を図るためには、多様な手法での広報・宣伝等の活動が必要であり、継続。効果等の検証を行い、ターゲット毎に有効な手法で広報・宣伝等の活動が実行できるよう、検討していくこと。
観物018	群馬ステーション観光キャンペーン	再掲	産業経済部	観光物産課	本県の観光イメージ及び知名度の向上を図るとともに、多くの観光客の誘致を実現するため、JRRグループと自治体協力が中心として実施する国内最大規模の観光キャンペーンである「ステーション観光キャンペーン」を群馬県で開催するための受入体制づくりやPRを行う。	期間中の観光入込客数	人	-	-	0	76,750	119,876	76,750	2020年4～6月の本県で「ステーション観光キャンペーン」に向けて、観光資源の掘り起こしや棚卸し、受入体制整備などのほか2019年5月に開催する全国宣伝販売促進会議の準備を行った。	4継続	2020年4～6月本県で「ステーション観光キャンペーン」(以下DC)が開催された翌年にはアワードDCも開催される。引き続き、広報宣伝・誘客対策・受入体制整備を進めていく必要があることから継続。	4継続	令和2年春季には群馬DC、その翌年にはアワードDCも開催される。引き続き、広報宣伝・誘客対策・受入体制整備を進めていく必要があることから継続。
<b>施策3 歴史文化遺産活用・発信</b> <b>【目的】世界遺産や東国文化など、本県が誇る歴史文化遺産を活かして、県民の再認識を促すとともに、群馬のイメージアップにつなげる。</b> <b>【1】世界遺産や絹文化の活用・発信</b> ①世界遺産の保存整備を進め、その価値を発信し、活用と継承への意識を醸成します。																		
世遺001	世界遺産・くんま絹遺産の継承	企画部	世界遺産課	世界遺産・くんま絹遺産の保存整備、総合的な情報発信のための拠点施設整備、絹遺産に関する研究等を行う。	世界遺産構成資産を複数訪れたことのある県民の割合	%	70.3	35.0	40.0	678,987	427,868	224,830	世界遺産を将来的に確実に引き継ぐため、構成資産で行われた保存修理に対し事業費を補助した。また、整備中の世界遺産センター(仮称)用のガイダンス映像等を制作した。	4継続	世界遺産センターを中心に、県民の絹遺産に対する誇りと関心をもっと高めるため、県内絹遺産の継承と保存活用を図りたい。	4継続	絹遺産に対する関心をさらに高め、地域の活性化につなげていくとともに、後世に確実に継承していくため、継続。 整備中の世界遺産センターを拠点として、より効果的な情報発信に取り組んでいく必要がある。	

	個別事業名	区分	部局	所属	事業概要	成果(結果)を示す指標	単位	H30実績	H30目標	R元目標	H30当初(千円)	R元当分(千円)	H30決算(千円)	H30事業結果	部局評価	財政課評価			
	道管016	世界遺産関連整備	再掲	県土整備部	道路管理課	富岡製糸場周辺の県道前橋安中富岡線の富岡交差点改良や県道富岡神流線の電線共同溝、県道下仁田浅科線の現道拡幅等を行い、来訪者のアクセス道路の改善を図るとともに、一般河川三名川において、護岸の修繕改良を行う。	交差点改良及び電線共同溝整備進捗率%		86	79	100	180,000	84,000	338,169	富岡交差点の改良事業、仲町通り及び高山社周辺の電線共同溝について、工事を実施し、高山社周辺の電線共同溝整備を完了した。	4継続	世界遺産を有効活用した地域の活性化に向け、今後も、用地買収や工事を推進し、世界遺産へのアクセスルートの改良や周辺環境整備を進める必要がある。	4継続	世界遺産を訪問する観光客等の利便性向上と安全確保のため、計画的に整備を進める必要があることから、継続。
②日本遺産及びくま絹遺産を活用し、魅力あふれる「絹の国くま」を発信して本県のイメージアップを図ります。																			
	数開010	日本絹の里運営	再掲	農政部	蚕糸園芸課	蚕糸絹業に係る歴史、技術等の展示及び、絹の伝統や絹クワットの体験等を通じて、本県の伝統ある蚕糸絹業の歴史理解を深めるとともに、蚕業文化の継承と蚕糸絹業関係者の交流の拠点として日本絹の里を運営する。	企画展示の開催	回	8	8	95,805	96,179	95,788	第3期指定管理の指定管理者(公財)群馬県蚕糸振興協会による効率的な管理、運営を実施し、企画展示の開催や体験教室の充実のほか、接客サービス向上により快適な施設環境を提供。 第三者評価委員会(6名)を巡回開催、H30年度評価を実施、企画展示・特別展示8回、施設利用者総数44,139人。 解説ボランティア等による年間を通じた普及啓発活動により、今後の保存管理への理解促進や遺産継承への意識の高揚を図った。また、アグリふくみめぐりを活用した世界遺産・日本遺産・くま絹遺産等を巡るスタンプラリーを実施し、周遊促進を図った。	4継続	「高岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録に伴い、絹産業再生への機運が高まる中、世界遺産センター、周辺施設との連携を強化、効果的な広報活動の展開を図り、今後も、蚕糸や絹文化に関する市民理解を深めるとともに、蚕業文化の継承のため、企画展示機能や企画などの体験学習機能を備えた施設として運営する必要がある。	4継続	本県の伝統ある蚕糸絹業について広く県内外での理解を深め、蚕業文化を継承するための施設であり、継続。ただし、来館者は減少傾向にあるため、世界遺産センターとの連携や割引券の配布などにより来館者数を増加させる取組が必要。	
	世遺002	世界遺産・くま絹遺産の普及啓発等	再掲	企画部	世界遺産課	世界遺産・日本遺産・くま絹遺産ネットワークの推進、民間企業・団体と連携した普及イベント開催、民間団体の活動支援等	くま絹遺産の認知度	%	81	55	60	25,972	23,619	21,026	今和2年3月にオープン予定の世界遺産センターを中心拠点とし、世界遺産をはじめとした県内絹遺産を後世に継承してため、引き続き、民間団体や県民団体と協働して理解促進に努めた。	4継続	世界遺産や絹遺産への関心の高まりが一過性のものとならぬよう、関係者と協力して普及啓発を進めたい必要があるため、継続。整備中の世界遺産センターを新たな情報発信拠点として、効果的に活用していく必要がある。	4継続	世界遺産や絹遺産への関心の高まりが一過性のものとならぬよう、関係者と協力して普及啓発を進めたい必要があるため、継続。整備中の世界遺産センターを新たな情報発信拠点として、効果的に活用していく必要がある。
(2)東国文化の活用・発信																			
①群馬が古代東国文化の中心地であり、東日本最大の古墳群であるという「東国文化＝群馬」のイメージを発信、定着させ、本県のイメージアップにつなげます。																			
	文財002	東国文化周知事業	再掲	生活文化スポーツ部	文化振興課	中学生向け「東国文化副読本」および本県が誇る歴史文化遺産を活用した学外推進するとともに、「東国文化サミット」等のイベント開催により、「群馬＝東国文化」のイメージを全国に発信、定着させる。	中学校の歴史的分野の授業において、東国文化副読本を活用した学校の割合	%	97	95	100	26,551	16,633	25,934	市町村と連携した「群馬HANUI-1グランプリ」や群馬古墳フェスタの開催、H30年度「東国文化副読本」の配布、観光部局と連携した歴史文化遺産ツアー造成等を行った。群馬古墳フェスタ：約14,000人、群馬HANUI-1グランプリ投票総数：59,261票、歴史文化遺産ツアー(民間旅行会社)：10回	4継続	これまでの取組により東国文化の認知度は向上しているが、県民より郷土への誇りと愛着を持って、東国文化の価値や魅力に触れる機会をさらに創出していく必要がある。また、群馬DCを視野に、東国文化の魅力が観光やイメージアップにつながるよう全国に発信していく必要がある。	4継続	東国文化の歴史の価値や魅力を発信することは、郷土の愛着を醸成するとともに、観光においても効果が見込まれるため、市町村と連携して東国文化全体の歴史遺産の磨き上げを図りながら、継続。
	文財006	古墳・金井東墓遺跡情報発信事業	再掲	教育委員会	文化財保護課	県内の古墳からの出土品に関連した展示や講座、冊子の作成等を行う。	「古墳王国展」の見学者数	人	-	-	-	1,130	890	887	調査成果の公開・活用に向け、古墳情報データベースとスマートフォンアプリを作成し、アプリを公開し、県内各小学校で学習指導要領作成資料として利用する。平成30年に開催した「群馬県古墳展覧会」はくま古墳探訪の周冊子を一般販売。令和元年度の完成に向けて古墳学習プログラムの作成を行った。	4継続	アプリの情報内容を更新しつつ、ダウンロード数も増加している。古墳学習プログラムの作成し、県内各小学校で学習指導要領作成資料として利用する。地域の文化担当者や有志とも連携しながら地域学習としての取り組みを推進する。	4継続	群馬の知名度向上や県民の郷土に対する誇りを醸成するために、東国文化の情報発信を進めたいことが重要であり、継続。
②上野三碑の世界記憶遺産登録を推進します。																			
	文財016	上野三碑世界記憶遺産登録推進	再掲	生活文化スポーツ部	文化振興課	官民一体による「上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会」を中心に、地元高崎市をはじめ県や関係機関等の協力を得ながら、最短期での世界記憶遺産登録(H29年)を目指す。	上野三碑の世界記憶遺産登録	-	-	-	-	5,000	3,000	5,000	H30年11月24日に「世界記憶遺産登録1周年記念式典」を開催するとともに、登録までの経緯をまとめた記録集を発行した。また、上野三碑の価値や魅力を広く県民に知ってもらうため、県内3箇所で開催した。	2部小一部禁止、統合	コネコ「世界の記憶」への登録より当初の事業の目的は達成されたため、縮小していくが、上野三碑は本県の貴重な歴史文化遺産のひとつであるが、群馬DCを視野に、上野三碑の価値や魅力を広く県民に知ってもらうため、県内3箇所で開催した。	2部小一部禁止、統合	「世界の記憶」への登録により事業目的が達成されたため、縮小していくが、上野三碑は本県の貴重な歴史文化遺産のひとつであるが、群馬DCを視野に、上野三碑の価値や魅力を広く県民に知ってもらうため、県内3箇所で開催した。
③文化財を磨き上げることにより、豊かな自然環境と優れた歴史・文化を合わせた新しい魅力を持った文化財ネットワークを創出します。																			
	文財001	文化財保存事業費補助	再掲	教育委員会	文化財保護課	国・県指定文化財を良好な状態で保存し、活用を図るため、所有者(市町村、法人、個人)が実施する保存修繕等の事業への補助する。	補助事業件数	事業数	50	55	55	101,953	96,654	99,197	・県指定文化財保存事業への補助15件・国指定文化財保存事業への補助17件・埋蔵文化財発掘調査事業への補助11件・国指定重要文化財防災設備保守点検事業への補助7件	4継続	群馬の文化財の価値を磨き上げ郷土学習に活かし、県民が郷土群馬に誇りと愛着を持って学ぶに資するとともに、群馬の文化財の魅力が発信していくために、全国にアピールできる指定文化財の保存・整備事業に対し、積極的に補助や支援、指導助言を行う必要がある。	4継続	文化財の適正な保存・整備を行い、後世へ引き継いでいくため、継続。毎年多くの要望がある状況を踏まえ、効果的な事業実施について検討が必要。
	文財002	観音山古墳保護管理運営	再掲	教育委員会	文化財保護課	史跡観音山古墳を適切に保存・管理・活用する。また、管理や来訪者への対応を充実し、文化財としての価値とあわせて、観光資源としての価値も高める。	史跡観音山古墳見学者数	人	11,994	15,000	15,000	4,371	4,372	4,308	・史跡地等の環境整備・維持管理等・史跡見学者対応(解説員2人対)・史跡広報・普及活動・駐車場の確保など、歴史博物館が再開したこと、見学者数は増加傾向。	4継続	本史跡はS48年に国指定となり、群馬県が直接管理している東国文化を代表する古墳である。所在する高崎市内の学校をはじめ、県外からの見学者も多く、今後も適切な保護管理をしていく必要がある。	4継続	後世に引き継いでいくため、適切に保存・管理・活用する必要があるため、継続。イベントの来場者も増加しており、引き続き、広報、普及活動を行うとともに、適切な保護管理を行う必要がある。
	文財003	上野国分寺跡保護管理運営	再掲	教育委員会	文化財保護課	史跡上野国分寺跡を適切に保存・管理・活用する。また、管理や来訪者への対応を充実し、文化財としての価値とあわせて、観光資源としての価値も高める。	史跡上野国分寺跡見学者数	人	22,948	10,000	10,000	8,235	7,372	8,029	・史跡地等の環境整備・維持管理等・ガイダンス施設内外の環境整備・維持管理・見学者対応(解説員3人対)・年々来場者数を除き年中無休)・史跡広報・普及活動・園分寺跡歴史講座・地域行事と連携した史跡地の活用(園分寺まつり)	4継続	本史跡はT15年に国指定となり、群馬県が直接管理している群馬県の東国文化を代表する史跡である。史跡についての広報、普及を積極的に進め、郷土学習の場としての利用を推進している。おまには児童生徒の郷土への誇りと愛着を持つ心の育成に資するため、今後も適切な保護管理をしていく必要がある。	4継続	後世に引き継いでいくため、適切に保存・管理・活用する必要があるため、継続。イベントの来場者も増加しており、引き続き、広報、普及活動を行うとともに、適切な保護管理を行う必要がある。
	文財004	上野国分寺跡整備	再掲	教育委員会	文化財保護課	史跡上野国分寺跡の整備について、発掘調査を実施し、その結果に基づき、復元等の整備を行う。	事業内容	保存活用計画 策定	保存活用計画 策定	整備基本計画 策定	7,941	13,649	4,589	追加の発掘調査を実施し、整備のための基礎情報の収集を行った。その結果、東辺の指定地外で、寺域外郭溝が検出された。また保存活用計画を策定し、今後の整備や活用方針についてまとめることに、これまでの調査成果を踏まえ、パレットをリニューアルした。	4継続	H29年度に発掘調査報告書を作成し、H30年度に保存活用計画を策定した。今後H31～H29年度に、整備基本計画の策定を進め、より良い史跡整備事業を計画立案していく必要がある。	4継続	地域の貴重な文化財を活用しながら保存することは重要であり、継続とするが、保存活用計画と整備基本計画の策定に当たっては、関係者と調整を図りながら、総事業費や単年度事業費について、よく検討を行う必要がある。	
	文財011	文化財保護審議会運営	再掲	教育委員会	文化財保護課	県内の文化財の保存及び活用に関する重要事項について審議する。県にとって重要な文化財を指定し、保護を図っていく。	国及び県指定等の文化財件数	点	926	896	898	1,509	2,154	815	年2回の文化財保護審議会を開催し、審議の結果、重要文化財(美術工芸品)1件・史跡(古墳)2件を指定し、保護の措置を執ることができた。その他にも6部門の専門部会ごとに、計画的に文化財調査を行った。	4継続	県内の文化財に関する様々な内容を審議するため、各専門分野の学識経験者による協議が必要であり、審議会審議及び6部門の専門部会による文化財調査は今後も必要不可欠である。	4継続	文化財保護法に基づいた機関の運営にかかる経費であり、継続。
施策4 文化・スポーツの振興・活用																			
【目的】群馬の誇りを再発見し、心豊かな文化にあふれた活力ある「文化県群馬」を実現するとともに、スポーツ振興条例に基づき、明るく豊かな活力ある「スポーツ県群馬」を実現します。																			
(1)文化芸術の振興・活用																			
①群馬交響楽団によるトップレベルの演奏で文化の香りが高い群馬づくりを進めます。																			
	文財004	群馬交響楽団支援	再掲	生活文化スポーツ部	文化振興課	子どもたちに音楽の素晴らしさや感動を伝えるため「移動音楽教室」、「高校音楽教室」、「楽器セミナー」、「幼児移動音楽教室」等を開催する。また、本県のイメージアップを図るため、東京公演や県外公演を実施する。	定期演奏会の平均入場者数	人	1,457	1,480	1,500	313,923	286,028	312,573	年間公演回数 253回(年間観覧者数 136,196人)うち、定期演奏会 10回(入場者数 14,565人)※1回平均 1,457人	5継続(見直しあり)	定期演奏会をはじめとする各種公演、小・中学校等での移動音楽教室等を通じて、地域に根ざしたトップクラスの音楽団として県民に愛され、本県の音楽文化の向上に貢献し、引き続き、県民の愛着のあり方や楽団運営のあり方等について検討が必要がある。	5継続(見直しあり)	群馬交響楽団は本県の音楽文化の向上と振興に貢献していることから、継続。引き続き、県の支援のあり方や楽団運営のあり方等について検討が必要がある。
②県立美術館・博物館における鑑賞機会を充実し、県民に喜びや感動を与え、潤いのある暮らしに寄与します。																			
	文財009	県立美術館・博物館管理運営	再掲	生活文化スポーツ部	文化振興課	学校教育を補完し、子どもたちの感性を育むほか、一般県民に優れた芸術文化に触れる機会を提供し、芸術文化への関心を高める。	県立美術館・博物館の年間入館者数(全5施設)	人	561,639	540,000	540,000	924,349	999,342	853,966	館林美術館では前年割れとなったが、他4館の入館者は好調に推移した。特に、正歴史文明記念文学館では企画展が通年好評であったほか、タイムリーなイベント実施、こまめな情報発信などに努めた結果、入館者数を大きく伸ばした。	4継続	歴史博物館は開館40周年を迎え、更なる入館者の増加に向け取組のほか、令和4年度の「公開施設」の再確認に向けた適切な鑑賞機会を確保する。また、各館においては、より魅力的な展示、タイムリーな情報発信及び教育普及事業の積極的な推進に向け、入館者の確保に努める。	4継続	鑑賞に必要な経費であり継続とするが、より効果的な鑑賞機会を確保する必要がある。今後も、より魅力的な展示内容となるよう工夫し、入館者数の増につながるよう努める必要がある。

	個別事業名	区分	部局	所属	事業概要	成果(結果)を示す指標	単位	H30実績	H30目標	R元目標	H30当初(千円)	R元当分(千円)	H30決算(千円)	H30事業結果	部局評価	財政課評価			
③自主性、創造性及び多様性を尊重し、県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境を整備します。																			
	文脈005 教育文化事業団運営(県民芸術祭委託)			生活文化スポーツ部	文化振興課	県展(美術、書道、写真、華道、大茶会)、県文学賞、マンガ・アニメフェスタ、演劇等の制作・公演、くま新入演劇会、県民音楽のひろば、能楽鑑賞会、小中学校伝統芸能教室等	県民芸術祭入場者数	人	205,974	196,000	200,000	47,300	45,008	46,716	県展(美術・書道・写真・華道・大茶会)、県文学賞、GUNMAマンガ・アニメフェスタ、県民音楽のひろば、小中学校伝統芸能教室等を開催するとともに、公募により県内の子どもたち「子ども歌謡夜公演」を行った。入場者数は、前年度から参加事業が減少した点等により、参加者数が減少しましたが、目標を達成することができた。(入場者数205,974人)	4継続	伝統文化や新たなメディア芸術等、幅広い芸術の振興を図るべく、県内文化団体による成果発表や、子ども向けワークショップ等の実施を通して、本県文化の担い手育成と文化発展に大きく寄与しており、今後の継続して事業を行う必要がある。国(文化庁)等の各種補助金を積極的に活用するなど取組前に努めるとともに、県民芸術祭運営委員会等で検討を重ね、時代のニーズに合った芸術振興していく必要がある。	4継続	県民に文化芸術の表現及び鑑賞機会を提供する事業であり、継続。今後も内容の見直しを図りながら、実施していくことが必要。
	文脈010 伝統文化継承事業	再掲		生活文化スポーツ部	文化振興課	地域の伝統文化を継承する活動に対して経費の一部(3分の2)を補助する。	伝統文化継承事業市町村調査で、伝承状況が「盛ん・順調・復活」と回答された件数	件	571	620	-	10,136	9,124	8,198	県内各地域の伝統芸能や祭り等の継承活動を支援した。支援件数43件。	4継続	伝統文化の継承活動への支援を通じて、人と人が絆で結ばれ、安心安全な地域づくりを推進することができた。支援実績は43件で昨年度から8件増となった。今後も市町村との連携による取組を図りながら、より利用しやすい制度の実現と、県内全域の伝統文化の継承状況の改善に向けて継続して取り組む。	4継続	伝統文化の継承活動を支援することで、地域社会の再生を推進するため、継続。引き続き、補助の効果を検証しながら、適切な執行に努めること。
	文脈011 文化づくり支援事業	再掲		生活文化スポーツ部	文化振興課	文化を通じた人づみや文化の力で地域を元気にする活動に対して経費の一部(2分の1)を補助する。	「群馬の文化」支援事業の支援件数	件	14	20	20	9,070	8,309	4,651	「群馬の文化」の形成につながる地域で多様で創造性豊かな文化活動を支援した。支援件数14件。	4継続	文化振興指針の重点施策である「文化力の向上」及び「次世代の育成」について、総合かつ効果的に推進する文化活動を支援することができた。R元年度から、市町村への補助を見直し、今後も各種団体が広く活用できる制度となるよう周知を図る。	4継続	県内で行われる多様な創造性豊かな文化活動を支援するため、継続。
④文化の継承及び発展を担う人材・団体を育成します。																			
	文脈010 伝統文化継承事業	再掲		生活文化スポーツ部	文化振興課	地域の伝統文化を継承する活動に対して経費の一部(3分の2)を補助する。	伝統文化継承事業市町村調査で、伝承状況が「盛ん・順調・復活」と回答された件数	件	571	620	-	10,136	9,124	8,198	県内各地域の伝統芸能や祭り等の継承活動を支援した。支援件数43件。	4継続	伝統文化の継承活動への支援を通じて、人と人が絆で結ばれ、安心安全な地域づくりを推進することができた。支援実績は43件で昨年度から8件増となった。今後も市町村との連携による取組を図りながら、より利用しやすい制度の実現と、県内全域の伝統文化の継承状況の改善に向けて継続して取り組む。	4継続	伝統文化の継承活動を支援することで、地域社会の再生を推進するため、継続。引き続き、補助の効果を検証しながら、適切な執行に努めること。
	文脈011 文化づくり支援事業	再掲		生活文化スポーツ部	文化振興課	文化を通じた人づみや文化の力で地域を元気にする活動に対して経費の一部(2分の1)を補助する。	「群馬の文化」支援事業の支援件数	件	14	20	20	9,070	8,309	4,651	「群馬の文化」の形成につながる地域で多様な創造性豊かな文化活動を支援した。支援件数14件。	4継続	文化振興指針の重点施策である「文化力の向上」及び「次世代の育成」について、総合かつ効果的に推進する文化活動を支援することができた。R元年度から、市町村への補助を見直し、今後も各種団体が広く活用できる制度となるよう周知を図る。	4継続	県内で行われる多様な創造性豊かな文化活動を支援するため、継続。
(2)スポーツの推進・活用																			
①地域スポーツの振興を図るため、県民がスポーツに親しむ心・環境を提供します。																			
	スポ001 生涯スポーツ振興	再掲		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	県民の身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができるよう、市町村と連携し、総合型地域スポーツクラブ活動を支援するとともに、地道な活動を継続し、生涯スポーツの健全な普及発展に貢献した関係者及び団体を表彰する。	総合型地域スポーツクラブの会員数	人	8,157	8,680	8,790	1,573	1,600	1,290	各地域で展開されている総合型地域スポーツクラブの創設及び育成や運営等の支援と生涯スポーツに関する情報を提供した。1クラブが本部となり、42クラブが活動した。また、だれもが参加できるスポーツ大会を年間を通じて33大会開催し、15,817人の参加を得た。	4継続	県民が主体的にスポーツに親しめる環境の整備と県内の生涯スポーツを推進するため、総合型地域スポーツクラブの設立や安定したクラブ育成に対する支援と生涯スポーツに関する情報提供を継続して行う必要がある。	4継続	総合型地域スポーツクラブの会員数は減少しているものの、生涯スポーツを振興するため、身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができる場を提供するためには必要であり、市町村と連携しつづける。
	スポ002 くまマラソン			生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	H27からくまマラソンにフルマラソンを導入し、フルマラソン大会開催を望む県民の要望に応えるとともに、県内外の参加者に本県の魅力をアピールする。	大会参加者数(エントリー数)(合計)	人	17,057	15,000	15,000	47,148	44,833	42,610	フルマラソンの実施により、県内外から多くの参加者を迎えることができた。本大会の実績により参加者の健康増進を図るとともに、群馬の魅力を発信する機会となった。また多くのボランティア協力したくま、大きな盛り上がりが見られた。	4継続	くまマラソンにおいてフルマラソンを併せて開催することにより、幅広い年代・レベルの方が参加できる機会を増やるとともに、県内に本県の魅力より効果的に発信することができるため継続する。	4継続	幅広い年代・レベルの方が参加できる大会を開催することで、県内スポーツ活動の活性化を図ることができるとともに、県内外より多くの参加者や応援のための人々が集まり、本県の魅力をアピールする絶好の機会であるため、継続。
	スポ005 県有競技別拠点スポーツ施設整備			生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	群馬県スポーツ施設の設定及び管理に関する基本計画において位置付けた県有競技別拠点スポーツ施設を計画的に整備する。	県総合スポーツセンター利用者数	千人	1,105	1,329	1,350	50,280	294,406	41,839	総合スポーツセンターについて、中央監視システムの更新を行った。また、伊香保リンクについて、浄化槽更新に向けた実施設計を行った。	4継続	県有競技別拠点スポーツ施設について、施設の老朽化が進んでいるため、2028年開催予定の国体等の大規模大会の会場や、将来にわたる県民のスポーツ活動の受け皿として活用できるよう、引き続き計画的な整備を推進していく必要がある。	4継続	基本計画に位置付けた県有競技別拠点スポーツ施設について、利用者が安心・安全に利用できるような必要な維持補修等を行うための経費であり、継続。国体の開催に向け、既存施設の活用を前提とした計画的な整備を推進していく必要がある。
	スポ006 市町村有競技別拠点スポーツ施設整備			生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	群馬県スポーツ施設の設定及び管理に関する基本計画において位置付けた市町村有競技別拠点スポーツ施設の整備に対する市町村への補助制度を創設する。	二巡回国体開催に向けた施設整備	件	1	3	3	90,163	14,988	101,312	沼田市民体育館の空調設備新設工事及び高崎市の沼田運動公園ソフトボール場整備事業に対して補助を行う。	4継続	2028年開催予定の国体等の大規模大会を見据えたスポーツ施設整備を市町村と連携して計画的に行っていくため、引き続き市町村に対する支援を行う必要がある。	4継続	大規模大会を本県で開催するために必要な市町村有競技別拠点スポーツ施設整備の補助であり、継続。
	スポ011 アウトドアスポーツ推進	再掲		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	豊かな自然環境を活かした既存のアウトドアスポーツを磨き上げ、国内外の観光客の増加等を図る。(県境の山々の縦線100kmを活用したロングトレイル整備の検討)	縦線トレイル関連イベント実施回数	回	7	5	5	31,038	41,911	29,901	新規開通区間の選定整備、案内看板の設置、ロゴマークの設置、トレイルマップ(日本語版及び英語版)の作成等を行い、8月11日に縦線トレイル全線を開通させるとともに、登山道の安全情報等の提供を行った。ヘリ事故により中止となっていた、開通記念イベントの開催準備を行った。	4継続	昨年8月に全線開通するとともに、関係部局、市町村、関係団体等と連携した取組を進めているため、検討委員会を活用促進協議会に発展改組した。今後も周辺観光資源と結びつけた地域振興施策の充実を図りつつ、トレイルの安全性向上施策を進める必要がある。	4継続	アウトドアスポーツを通じて群馬の魅力を国内外に発信し、観光客の増加等を図るため、継続。なお、トレイルが安全に活用されるとともに、効果的に魅力を発信するため、引き続き、関係部局、市町村、関係団体等と連携して、取組を進める必要がある。
②本県選手が全国・世界の舞台で活躍するために競技力の向上を推進します。																			
	スポ003 競技力向上対策費(選手強化費)			生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	(公財)群馬県スポーツ協会が実施する競技力向上対策事業及び同協会加盟の各競技団体・学校体育団体が実施する強化活動に対する経済的援助を行う。	国民体育大会総合順位	位	32位	15位以内	15位以内	200,000	202,000	198,900	本県選手が全国や国際大会等での活躍を目標に、競技団体等が実施する事業に対して競技力向上対策費を補助し、選手強化、ジュニア選手の発掘や育成、指導者を育成等を行ったが、H30年度国体では、総合順位32位、846.0点で目標には及ばなかった。しかし、くまスノーパークプロジェクト出身者がユースオリンピックで銀メダルを獲得するなど、ジュニア育成では成果を挙げることができた。	4継続	2028年に本県開催予定の第83回国民体育大会を見据えてオリンピック・パラリンピック競技大会などの国際大会や全国大会等で活躍できる選手の発掘・育成を目指し本県の競技力向上を計画的に行っていく。そのため、ジュニア選手の発掘・育成やトップアスリートの活動に対する支援、指導者の養成・資質向上など、継続して競技力向上対策事業に取り組む必要がある。	4継続	本県の競技者育成、指導者の養成等に必要となる補助金であり、継続。H30国体の実績は、前年度を大きく下回っており、今後の成績向上に向け、他県の取組等も参考としながら、より効果的、効率的な事業となるよう検討すること。
③生涯スポーツに貢献した人・団体を表彰します。																			
	スポ001 生涯スポーツ振興	再掲		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	県民の身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができるよう、市町村と連携し、総合型地域スポーツクラブ活動を支援するとともに、地道な活動を継続し、生涯スポーツの健全な普及発展に貢献した関係者及び団体を表彰する。	総合型地域スポーツクラブの会員数	人	8,157	8,680	8,790	1,573	1,600	1,290	各地域で展開されている総合型地域スポーツクラブの創設及び育成や運営等の支援と生涯スポーツに関する情報を提供した。1クラブが本部となり、42クラブが活動した。また、だれもが参加できるスポーツ大会を年間を通じて33大会開催し、15,817人の参加を得た。	4継続	県民が主体的にスポーツに親しめる環境の整備と県内の生涯スポーツを推進するため、総合型地域スポーツクラブの設立や安定したクラブ育成に対する支援と生涯スポーツに関する情報提供を継続して行う必要がある。	4継続	総合型地域スポーツクラブの会員数は減少しているものの、生涯スポーツを振興するため、身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができる場を提供するためには必要であり、市町村と連携しつづける。
④東京オリンピック・パラリンピック等の事前キャンプ地誘致や団体招致を推進します。																			
	スポ004 キャンプ地誘致推進			生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた、大規模スポーツイベントの事前キャンプ地誘致を行う。	キャンプ地誘致実現	-	6が7種目基本合意	県内市町村と相手国による基本合意	-	268	94,979	127	オリンピック・パラリンピックの気運を醸成するため、フラッグ施設イベント・県内13市町村においてフラッグ巡回展示を行った。また、聖火リレー通過市町村を中心に県民団体と協働で、ホストタウン事業の概要等の説明を行うとともに、キャンプ地誘致にかかる情報交換を行った。	2部局小一部局小一併	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたキャンプ地誘致については、現在、ホストタウン登録された市町村が具体的に地誘致を進めている。県としては、ホストタウンの実施する県民を対象とした交流事業への支援や聖火リレーの実施等、オリンピックに向けた気運醸成を引き続き取り組んでいく。R2年度予算については、聖火リレーの終了に伴い一部停止。	2部局小一併	R2年度はホストタウンの実施する交流事業に対する支援を継続。聖火リレーが終了したことから、本事業全体の予算としては一部小一併とする。